

田殿丹生神社（出地区）

有田川町内には、丹生都比売命（丹生明神）を祀る丹生神社が多くあります。かつらぎ町天野に鎮座する丹生都比売神社がその総本社で、和歌山県内では紀の川流域から有田川流域にかけて広く信仰されている女神です。もとは水銀を採掘する技術集団で古代豪族の丹生氏が信仰していた氏神であり、水の神として信仰されてきました。

有田川町内の丹生神社の中でも、古い歴史があるのが田殿丹生神社です。田殿丹生神社は白山の麓に鎮座していますが、白山は原始から神が降臨する場所として信仰の対象であり、神社は有田川下流域の聖地と考えられる重要な場所に位置しています。

田殿丹生神社は、丹生都比売命と大名草彦命（高野明神）を主祭神としています。この二柱の神は、高野山の鎮守の神であり、密教の修行に適した場所を探していた空海が高野山を開創する際に、犬を連れた狩人（高野明神）からふさわしい土地を教えられ、高野山の領地を治めていた丹生都比売命と出会い、その神領を受

け継いだとする伝承がよく知られています。

「丹生大明神告文」という古代から伝わる古文書の中には「安諦夏瀬の丹生に忌杖刺し給ひ」と記されており、安諦夏瀬の丹生に該当する田殿丹生神社の古い歴史を物語ります。「忌杖刺し」とは、杖を刺して聖なる神域を定めることです。

かつて社殿が建てられていた夏瀬の森は、現在の有田川よりも、さらに南まで広がる広大な森であったと伝わっています。しかし、平安時代以降の幾度かの大洪水によって森の大部分が失われ、社殿も現在地に移転されました。田殿丹生神社の境内には、有田川の河川工事で見えられたクスノキがご神木として祀られています。これはかつての夏瀬の森に生育していたものと考えられる由緒あるものです。また、夏瀬の森にあるクスノキの巨木（県指定文化財）は、かつての夏瀬の森にあったクスノキの根元から生えた若芽が生育したものと伝わります。

